

平成29年度 中央図書館 目標管理(事業計画)

資料1

課題・問題点	目標	実施項目	総括(4月~3月)	年間スケジュール											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	児童館の古い本の入れ替えが済んでいない	最大4館を入れ替え 1.現場での除籍本調査・選定(長久手西) 2.新しい本の配置(上郷、長久手西) 3.整備済みの2館へ本の貸出を実施(下山、長久手南)	●「最大4館を入れ替え」とした目標については、3館の入れ替えが完了した。 ●「実施項目」レベルでは「1.現場での除籍本調査・選定(長久手西)」は、現地調査を経て約750冊を除籍し、業務を完了した。 「2.新しい本の配置(上郷、長久手西)」では、上郷に500冊を搬入。長久手西にも200冊を搬入した。 「3.整備済みの2館へ本の貸出を実施(下山、長久手南)」では、過去に団体貸出を行った両館の中身入替え(メンテナンス)を完了。各館200冊ずつ搬入。 【成果】中央図書館から児童館へ相当冊数をまとめて貸出したことが有効に作用した。例えば、本の入れ替えをする度に、小学生(低学年)が館内で読書することが増えた。館内での利用冊数は統計化されないため、明確な数値はつかめないが、本が定期的に入れ替わり、棚が新鮮であることによる効果が出たと見ている。また児童館の幼児教室では、中央図書館の絵本を使った読み聞かせが定着した。総合的に児童館を利用する子どもの読書量が増えた。 【今後の課題】児童館側では、これまで本に関する知識等を得る機会がなかった。今後は、中央図書館から本や図書館講座等の情報を伝達するなど、サポートの方策を考案する。												
2	中高生の読者層が少ない	中高生への貸出冊数を前年度比2%(約370冊)増(前年度18,582冊) 1.中央図書館司書と学校連携司書で400冊本を選らぶ。 2.PR目的の展示・告知コーナーを設け、わかりやすい図書リスト等を掲示。 3.図書館HPに、専用ページを設け、毎月更新。	●「中高生への貸出冊数前年度比2%増」とした目標については、3月末で17,813冊(前年比96%)であるため未達成。 ●「実施項目」レベルでは「1.中央図書館司書と学校連携司書で400冊本を選らぶ」は478冊を選書し、完遂。 「2.PR目的の展示・告知コーナーを設け、わかりやすい図書リスト等を掲示」では、1階中央部に中高生専用棚を前年比3倍で設け、表紙を見せるテーマ別の特集コーナーも展開。配架数は当初の400冊から1000冊に。推薦図書リストも掲示。中高生の自習利用が多い2階多目的室横にも中高生向きPRコーナーを開設。市内の2高校との情報交換等も開始した。 「3.図書館HPに専用ページを設け、毎月更新」では、当該コーナーを写真で紹介し、推薦本リストも掲載。 【成果】中高生向けの棚は充実できた。ただし、貸出冊数の増加には至っていない。 【今後の課題】中学生向けは学校連携事業のノウハウが応用できるが、高校生向けのノウハウが少ない。広報面での新しい取り組みが必要と考えられる。来年度は、この中高生向けの棚の貸出し動向を注視していく。												
3	不明本の発生がある	年間の不明本冊数を前年度比3割(約90冊)減らす。(前年度310冊) 1.不明化傾向分析に基づく配置換え。 2.本にマーキング	●目標値の基準は毎年2月に行う蔵書点検の棚卸し結果である。前回の310冊に対し209冊であった。33%の減少であり目標は達成した。 ●「実施項目」レベルでは「1.不明化傾向分析に基づく配置換え」は、不明化傾向のあった特定の旅行書のシリーズをカウンター前へ移設したところ、不明化は減少。 「2.本にマーキング」では、特定週刊誌に赤色の館所蔵スタンプを押すようにしたところ、不明化は減少。このほか館内に各種の警告表示を貼付。なおマーキングや警告表示に対する苦情はない。 【成果】入館者の動線を踏まえた各種警告の視覚効果があったと見ている。 【今後の課題】アナログ的対応での、さらなる減少化。(方法立案)												
4	延滞本が減らない	30日以上延滞者を3割減らす。(前年同月比) 督促対象延滞日数を30日以上から15日以上へ変更。ハガキを郵送もしくはメールで連絡。	●「30日以上延滞者を3割減らす。(前年同月比)」とした目標については、督促対象延滞日数を今年度から30日以上から15日以上へ変更したため、合計値の単純比較はできないが、昨年と条件をそろえて2月分サンプル集計したところ、69%(31%減)であったことから目標達成。 ●「実施項目」レベルでは、「督促対象延滞日数を30日以上から15日以上へ変更。ハガキを郵送もしくはメールで連絡。」を実行継続中。 【成果】サンプル集計の結果ではあるが、目標の「3割」に到達している。督促の頻度を高めたことが効果的だった。 【今後の課題】年度後半から、貸出冊数に対する延滞割合を算出している。この値も見ながら、督促の効果的な方策を検討していく。												